

歴史の道

the history of road

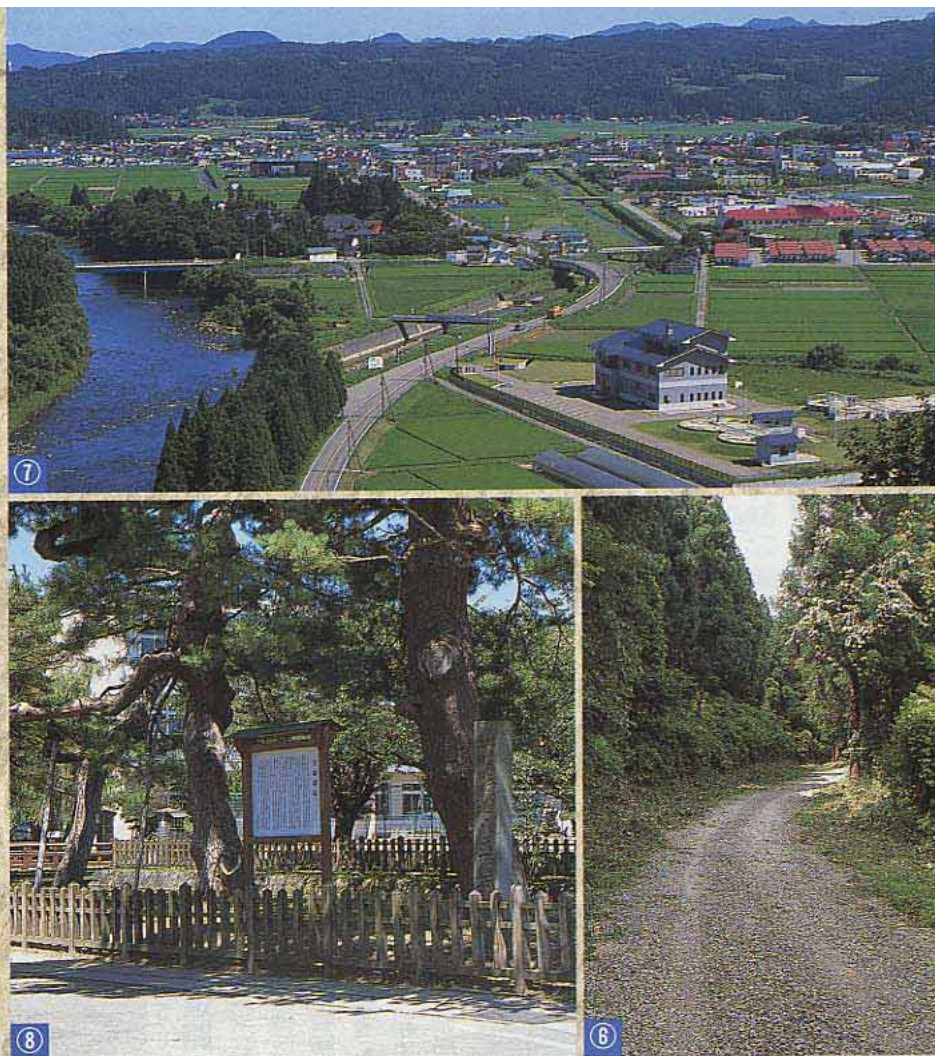
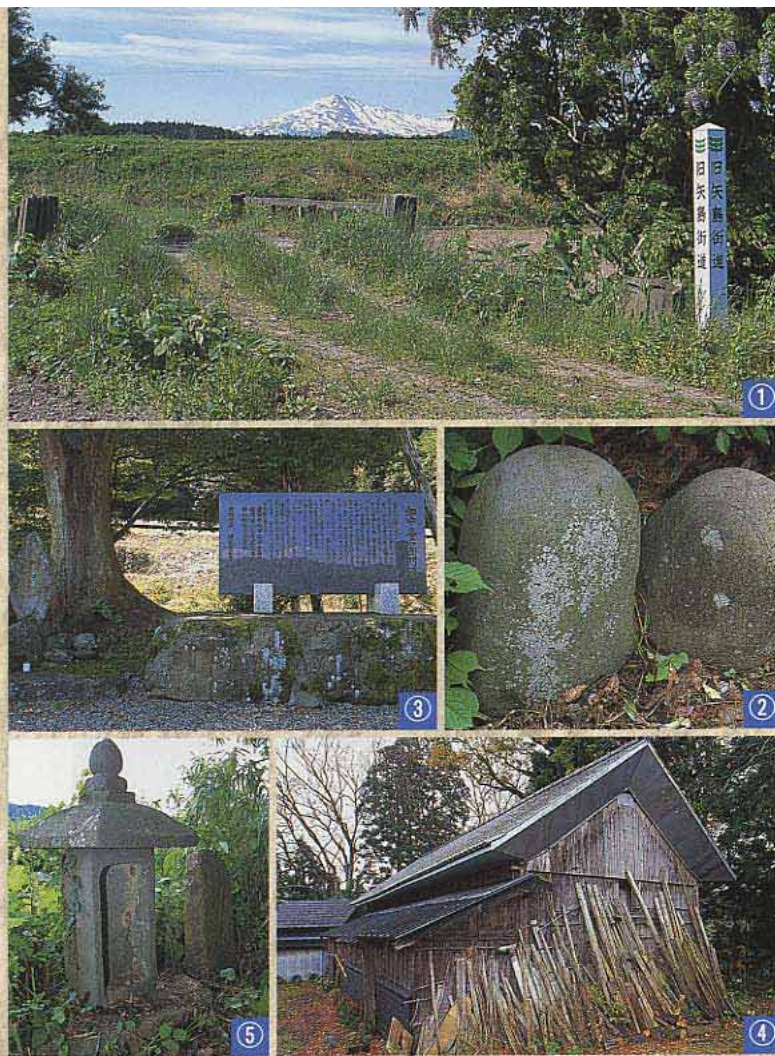
道をゆく

矢島街道

②

大水口から吉沢へ

前郷の町並みを抜けた街道は、飯沢踏切で由利高原鉄道を横切り、田んぼの中の道を大水口に進む。集落の入口手前左手に、大水口番所跡がある。大水口は、矢島街道と下村郷（現・東由利町）方面への玉米街道との分岐でもあった。大水口地区には、現道の右手の畑と田の間に、旧矢島街道の道筋が一部残っており、嘉永5年（1852）の地蔵碑がある。現道に戻って五十土地区に少し進んだ左手の墓地の一角に、五十土経塚と線刻地蔵が立っている。五十土を出た街道は、小菅野集落の手前で右に分かれる。左手奥に集落を見て過ると、ヘアピンカーブになる。今は旧国道（県



道筋が残り、少し進んだ左手に金比羅碑があるが、その先は廃道状態になっている。ルートは間もなく国道108号に近付き、川原集落の旧道に入る。入ってすぐの左手に、石碑群がある。川原地区から矢島城下の北の外れの小田地区までは、現道より山側に前杉峠越えの旧道があり、車でも通ることができる。しかし川原からの矢島街道は、この道よりさらに山側に進んでいた。今は廃道状態になっているが、道筋は残っているので敷をこいで登って行くと、

やがて静かな杉林の林道に通じる。間もなく左手に七条左京供養塚のある先でほぼ直角に左折して進み、前杉峠越えの旧道に合流する。合流点近くにある前杉峠からは、子吉川や矢島城下を眼下に望むことができる。前杉峠越えの山道は小田で旧県道に合流して南下。矢島陣屋（八森城）のある台地の裾をめぐる形で東進し南進し、西進した後、左折して千砂利川を渡り、旧・町人町だった七日町などの矢島城下の中心部に入る。

道（蟹沢前郷線）で遮断された形だが、道路下をコンクリートのボックスで潜り抜ける道筋として残っている。道はやがて蟹沢地区で山本踏切を渡り、すぐ国道108号を横切って左手の山本集落内に入る。山本は、かつて山田といつた。国道を渡った正面右手に、戊辰戦争の山田合戦跡（由利町指定史跡）がある。山本を出た街道は左手の国道を斜めに横断して新上条を抜け、吉沢の渡しで子吉川を渡っていた。対岸から田んぼの道を少し進み、国道を横切って、本荘藩最南の村だった吉沢集落に入る。

集落内の道筋左手に、吉沢番所が置かれていたが痕跡は残っていない。道は番所跡のすぐ先を右折し、右手に庚申塔などを見て左折。吉沢の神明社前を過ぎ、国道108号に合流してすぐまた左手に分かれると、右手に畑中喜右衛門の碑（町指定史跡）がある。喜右衛門は滝沢村の名主をつとめ、代官所にしたびたび子吉川の改修を訴え、処刑されたと伝えられる。

子吉川舟運の地・小坂戸へ

喜右衛門碑の先の街道は農道の形で進み、間もなく由利町と矢島町の境を越えて小坂戸地区に入る。小坂戸は最上氏領から元和9年（1623）に本荘藩領になった後、寛永17年（1640）以降、矢島藩領になった。

町境（旧藩境）付近の国道108号の道筋左手に、文政年間や明治期の石碑群がある。少し進んで国道から左に分かれ小坂戸集落へ進む。入口付近右手の稲荷神社脇に、庚申塔や金比羅、四国八

十八箇所などの石碑群が並んでいる。もとは道筋左手にあったものも、ここに移して集めたものだ。

前杉峠を越えて矢島城下へ

子吉川舟運は天保年間（1830-1844）以降は築館まで溯ったが、それ以前は小坂戸が溯航終点の舟場だった。矢島領の入口にあたることもあり、藩の米蔵が置かれた。小坂戸の街道筋から少し川の方角に下りかけた道筋右手、佐々木一氏宅の一角に、矢島藩の米蔵が残っている。今は納屋として使っているが、本体は藩政時代のものといわれている。

佐々木氏の敷地下の河川敷に近い線路脇（由利高原鉄道）に、舟神碑がある。舟神前の崖に、穴堰と呼ばれる水路がポツカリと口をあけている。船着場は、線路の向こうの杉の木のあるあたりだったと聞いた。小坂戸舟場は天保以降も幕末まで矢島藩の舟運流通を支え、近代に入っても、昭和初期に国鉄矢島線（今の由利高原鉄道）が開通するまで、米や杉、杉皮などを本荘に運ぶ基地として活躍したといわれる。

小坂戸を出た街道は、杉沢の手前で国道108号に合流し、熊野神社の角で右手に分かれ集落への道に進む。その少し先、天照皇太神宮（杉沢神明社）脇に、太平山碑や庚申塔などの石碑がある。ここで右折し、祥雲寺跡の前で左折東進。有道坂と呼ばれた今も一部残る坂を経て集落内を抜け、「田中の地蔵様」線刻地蔵の角で国道108号に出る。田中の地蔵様の先は山側の旧街道の



この地図は国土院発行の1/200000地形図 秋田・新庄を複製したものです。

矢島街道・1回目紹介ルート
矢島街道・今回紹介ルート
矢島街道・3回目紹介ルート

①今も残る旧矢島街道（由利町大水口）

由利高原鉄道・前郷駅からおよそ1.5km南東の、田んぼ道の今の道路の右側にある。道幅は2mくらいで、約30mほどが残っている。

②五十土の線刻地蔵（由利町五十土）

旧矢島街道跡からほぼ1km南に進んだ所。今の道路のすぐ左側に、線で刻まれた、たおやかなお地蔵さんが2体。そばにある経塚ともども遺立年代は江戸後期。

③畑中喜右衛門碑（由利町吉沢）

川岸が浸蝕されて田畑がせぼめられたため、たびたび子吉川の改修を代官所に訴えて処刑された畑中喜右衛門。その義挙を記した碑で貞享3年（1686）の銘がある。

④矢島藩の米蔵跡（矢島町小坂戸）

小坂戸の船着場そばには藩の米蔵があり、藩の米蔵がいっぱいになると個人の蔵を利用したという。そのような蔵跡の納屋が残っている。

⑤舟神碑（矢島町小坂戸）

米蔵跡のすぐ下の田んぼの脇にある。この碑から、およそ300m東側の所が小坂戸の船着場だったという。

⑥前杉峠越えの旧道（矢島町前杉）

今はヤブと林の中に埋もれるような旧道をていねいにたどりながら前杉峠への道を上ると、この道路に行きあたる。

⑦前杉峠からの矢島の町並み（矢島町前杉）

前杉峠の頂上付近から、南に広がる矢島城下を見下ろす。かつての旅人もこの風景を見ながら休憩したに違いない。

⑧八森城址（矢島町籠町）

文禄年間（1592～1596）に大井氏がつくり、寛永17年（1640）から幕末まで、生駒氏が陣屋を置いた。現在はそばに矢島町役場や矢島高校などがある。

矢島街道